

平成23年10月

緊急声明

ポリオの会

代表 小山万里子

〒110-0011 東京都台東区三ノ輪 1-6-5-602

私たちは、ポリオに罹患し、麻痺を発症し、その後遺障害、二次障害に苦しんでいる患者の集まり、ポリオの会です。私たちのような思いをする人の無いよう、私たちの親と同じつらい思いにもうこれ以上誰ひとり苦しまなくて済むよう、ポリオの根絶を祈っております。

このたびの黒岩祐治神奈川県知事の、不活化ポリオワクチンを県独自で導入し希望者に接種、というご英断には、感謝に堪えません。「国がなんと言おうと、神奈川はやる！！」すばらしい宣言です。ポリオを発症しない不活化ポリオワクチンの接種を求めて、保護者は必死です。ポリオを発症しないために受けたワクチンでポリオになるという悲劇を避けたいというのは当たり前の思いです。ほかの自治体でもこのご英断に続いてくださることを期待いたします。願わくば、無料化または接種費用の助成、補償制度を設け接種希望者を安心させるなど、今後の課題としてご検討を期待しますが、何よりも、不活化ポリオワクチンを受けられる場があることは大変大きなことです。

生ワクチンによるポリオ発症の危険性が認識されて、生ワクチン接種率が大幅に下がっています。中国新疆でポリオが発生しております。接種率の低下によるポリオ再流行を国は危惧されて生ワクチン接種を呼びかけていますが、こういう事態だからこそ、不安なく信頼して予防接種を受けられるようにするのが国の務めではないでしょうか。安全な不活化ワクチンには補償がないから、補償が必要になるかもしれない生ワクチンを受けてくれという小宮山洋子厚労大臣のお言葉は、矛盾の極みと存じます。補償を受ける必要などない、ポリオにならないワクチンを選ぶのは、保護者の接種を受ける子供の権利ではないでしょうか。呼びかけに従って生ワクチンの接種を受け、ポリオ発症した場合にどうなさいますか。補償制度があるからよいなどといってほしくありません。

受け入れることはできません。安全なものがあるのになぜ犠牲はやむを得ないとするのでしょうか。

私達は昨年12月、不活化ポリオワクチンへの早急な切り替えと、国産不活化ポリオワクチンが出来るまでの外国製ワクチン緊急輸入を要望して署名を提出しました。2002年に厚労省予防接種部会で、不活化ワクチンへの切り替えをお願いしてからでもすでに9年たちます。昨年まで、私たちは、生ワクチンによるポリオ発症を訴えるとパニックになり、ワクチンを受ける人と受けない人が混在することでポリオ流行の危険があると、声を上げるのを自制してきました。しかし、次々に新たな被害者が出る。もう耐えられなかったのです。そして安全なワクチンを選べることを知ったのです。

力足らず、私どもの声に耳を傾けていただけないままに、今年も東京での生ワクチンによるポリオ発症が報じられました。日本ではこの30年、ポリオ発症は生ワクチンによってのみ起きています。

厚労省で不活化ワクチンへの切り替え方針が示され、8月末から円滑な移行への検討会が開催されていますが、しかし一刻も早い切り替えをと切願する私どもの思いはなかなか受け止めていただけません。早ければ来年度末に、という厚労大臣のお言葉はその間にまた被害者が出ることを容認されるものです。ポリオには21世紀の今も治療法がないのです。その子の人生、その家族の人生を担保できますか。補償などよりも、ポリオにならない保証をください。